

## 入選

### 親切のバトン

山形県 長井小学校 6年 川村 理未

「理未ちゃん、ありがとう。」

一年生からのうれしい言葉のプレゼントだ。

長井小学校では、六年生が新一年生の世話をすることになっている。一年生の世話をしていると、私が一年生のときに世話をしてくれたペアのはるなちゃんを思い出す。

「理未ちゃん、何して遊ぶ？」

と、はるなちゃんはいつもやさしく声をかけてくれた。私は、休み時間に背の高いはるなちゃんにおんぶをしてもらって、高いところからちがった景色を見るのが好きだった。どんなときもやさしくいつもいっしょで、楽しかったことばかりが思い出される。

でも、六年生になってみると、一年生のお世話は大変なときもある。

朝の時間の本の読み聞かせは、あきてしまってふらふら歩きはじめの子がいた。はじめはとまどったけれど、六年生でいい案を考えて、読み聞かせをする人と、面倒を見ながら聞く人にわかれる方法を試した。そうしたら、一年生みんなの目が本に集まってきた。そばに六年生がつくだけで、こんなに変わるんだなとおどろいた。

休み時間に、一年教室に行くと、みんながかけよってきた。

「だっこ、だっこお。おにごっこしよう。」

と近づいてくる。一年生を両手に連れて、かきわけるようにグラウンドに出ていき、おにごっこをした。転んで泣いてしまう子や、おんぶをしていると、うとうとと寝てしまう子もいた。でも、休み時間の終わりにはみんなが、「楽しかった。またきてね。」と笑顔で手をふってくれる。この笑顔を見ると、また一年生の教室に行きたくなる。

そうじの時間は、一年教室担当になると「やったあ」と思う。けれども、そうじを教えるのはそう簡単なことではない。ごみをポケットに詰めたり、ほうきで“まじよ”になりきっている子もいた。どう教えたらいいのか、ため息がこぼれた。そこで私は考えた。

「こうやってほうきを使うと、きれいにはけるんだよ。」

と、やさしく細かく、いっしょにやって教えた。すると、がんばってやろうとする子が増えてきた。見てあげるととても喜んでくれる。この顔を見ると、教えてよかったと思う。

私は、親切な六年生のお姉ちゃんが大好きだった。私が一年生のときにお姉ちゃんに親切にしてもらったから、私が六年生になったら親切を返したいとずっと思ってきた。でも、親切にすることはそう簡単なことではなかった。

どうしたら喜んでくれるのか、どうしたらわかってくれるのか、一年生の気持ちに寄りそいながら、工夫して教えることが大事だと思った。工夫して親切にして、一年生が笑顔になってくれたら、私までうれしくなる。親切のバトンは、毎年工夫しながら受けつがれていく。

今年は、私たち6年生が引きついだ親切のバトン。私がしてもらったように、1年生にたくさんの親切をプレゼントしたい。